

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590101093		
法人名	社会福祉法人 正和会		
事業所名	ケアコンプレックス高清水認知症対応型グループホーム		
所在地	秋田市土崎南3丁目13-44		
自己評価作成日	令和7年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和8年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出、外泊、対面面会を実施しており家族、知人との関係を途切れないうように努めている。</li> <li>・安心かつ安全で穏やかな生活が送れるよう、同グループ内の医療施設や福祉施設と協力体制を取っている。</li> <li>・各ユニットでスローガンを決め、それぞれのユニットの特色を活かしたサービスの提供を目指している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人を母体にした多くの運営施設を展開しており、法人のバックアップ体制が利用者、家族、及び職員の安心に繋がっています。ホームは2階にあり、交通量の激しい道路に面していることもあって利用者が地域の方と交流することが難しい環境ではありますが、ホームの存在は地域に理解されてきています。職員は利用者の症状の変化やそれに伴うリスクに対応しながらも円滑にコミュニケーションを図り、日々のケアに取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き生きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念は常時職員の目に入るところに提示し確認できるようにしています。	各ユニットで理念を基にスローガンを設定し、日頃の職員とのコミュニケーションの中で共有を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬季間は雪よせをきっかけに近隣への声掛け、挨拶を行う。市道の雪寄せも行い安全を願っています。	日常的な交流は少ないものの、雪寄せの時には近所の方や通りがかりの高校生と挨拶を交わしています。普段生活している中で立ち寄った人を保護することもあり、事業所として地域の理解が得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症対策の為、地域との交流がほとんど行われていないが土崎のお祭りには寄付を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催開いている。参加者の方々に課題のアドバイスを頂き参考にしています	議題を決めて開催し、参加者からアドバイスをもらっています。会議前に職員から意見を出してもらい、議題として上げることもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事案がある場合、速やかに連絡、相談を行っています。	書類提出や不明点の相談等で電話やメール、窓口に出向き、担当部署と連絡を取っています。運営推進会議の場で困難事例の相談に対応してもらうこともあります。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回委員会を開きその内容を回覧し職員に周知しています。また研修に参加し知識の向上に努めています。	適正化委員会、研修を通じて職員の理解を深め、言葉遣いに気をつけている他、普段から話し合いの中で行動を振り返っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに、学ぶ機会を設けることが出来ていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に、家族様へ契約書や重要事項について詳しく説明を行い、理解と納得を図っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	電話、メール、等でご家族様からの意見や要望を聞く機会を設け適切に運営に反映することが出来ています。	家族からは整容や外出、外泊に関する要望等があり、状況に応じて対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎日のミーティングノートを用いり当日の出来事を記入し疑問点を話し合う場を設けています。	日々の業務を通して出される職員の意見、提案がケアの向上に繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会へ会員登録をしており、情報の共有等を行っている。2ヶ月に1回同グループ内のグループホームの管理者同士情報交換を行う場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当が中心となり、ご家族様にも協力していただくことで、入居者様のニーズを引き出し、信頼関係を構築できるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様やご家族様と対話の時間を設け、不安や要望をじっくり聞くことで、話しやすい環境作りを心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が自身で出来るよう、部分的に支援する事で、本人様の出来ることを増やしていけるような関係性を目指している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に安心していただけるよう、毎月施設での様子を手紙で報告し、希望時は面会や電話で交流を図ることが出来るようにしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	これまでの生活歴を傾聴し家族、知人の繋がりを途切れないようにサポート出来る関係を築いています。親戚の美容室にお願いし外出されている入居者様もいらっしゃいます。	家族、親類が面会に訪れ、訪問理容の方とも馴染みの間柄になっています。家族の面会が少ない方にはホーム内での新たな関係づくりを働きかけています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が円滑に交流できるよう、時には職員が仲介し、共同生活を送ることが出来るように支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも、必要に応じて相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人や家族との話し合いをもち要望を聞く様に努めています。	利用者との日常の関わりの中で把握したことを職員間で話し合い、日誌に記録して共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中で、入居者様からこれまでの生活歴を聞いたり、必要に応じて、ご家族様からもお話を聞いている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	各担当者同士の話し合いの場を設け日々の状態伝え、ご本人の意向や要望を取り組んでいます。	担当職員のモニタリング後、他の職員の意見も聞いて介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録へも、問題点や様子を記録し、ケアプランへ反映している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為、地域資源の活用や把握が出来ていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	五十嵐記念病院による月2回の内科往診の他、希望があれば他科受診も行っています。	母体病院と連携して支援しており、訪問歯科診療を受けている方もいます。薬局とも連携し、適切に医療支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員への緊急連絡体制は24時間整えられている。小規模多機能型居宅介護の看護職員が、入居者様の状態把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療に臨めるよう、ご家族様、病院関係者とは定期的に情報交換をしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に入居者、ご家族様に状態が重度化した段階でGHで出来ることを説明しご意向を伺う。	看取り支援は行なっていませんが、法人内で連携を図って対応しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医、訪看の看護師により、予測される急変時の対処法は事前に全職員へ周知している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力は出来ていないがBCPを作成し年3回避難訓練を実施し全職員が災害時の対応を確認しています。また電気自動車からの発電や井戸水の汲み上げ等、設備面も充実しています。	ホームが2階にあるため、火災の際にはバルコニーに一時避難し、消防署との連携によって最終避難することになっています。職員にも周知されていますが、冬は積雪のため使用できない状況です。	利用者、職員が安心して避難するために、バルコニーを季節に関係なく常時使用可能な状態にするための検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識し職員同士でも注意し合っている。特に言葉使いには気を付けなれ合いにならないように日頃より注意している。入浴時は男性職員の介助に敬遠される方もいるので配慮しています。	人生の先輩でもあり、声かけの仕方には配慮ある対応を心がけています。同性介助に配慮し、都度確認して対応しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類の選択や移動美容室の利用にて、入居者様の嗜好を取り入れた支援を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや片付けも出来る範囲で一緒に行っています。	だまこを一緒につくったり、台所で洗い物を手伝ってもらったりすることで利用者の力が活かされています。誕生日や行事食は利用者にとって嬉しい食事の機会であり、雰囲気も楽しんでいます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎日記録しており、低摂取時にはご本人様の体調に合わせたもので補食を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない部分を一部介助している。自立している入居者様でも、確実に義歯の消毒が出来るよう、チェックを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表からパターンを知り時間で声掛け行っています。	チェック表を活用し、その人のパターンで声掛けすることで失禁の減少に繋がっています。排泄用品の使用状況を家族に伝え、費用負担に配慮しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物、食物繊維の多い野菜にて腸内環境を整え、自然排便を促すよう支援している。排便困難時は主治医へ相談し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本位で入浴への声掛け行っています。 行事により入浴剤を入れ温泉気分を味わって頂いています。 その人のADLによっては特殊浴槽も使用できます。	その日の気分や体調に合わせて柔軟に対応し、週2回を基本に支援しています。バスボードを使用して安全に浴槽に入ることができます。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠時間がとれるよう、居室内の温度や調光、就寝時の服装等を個々に合わせた支援を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用、容量等、入居者様一人一人の状態を職員全員が把握し、主治医や看護と情報共有し、症状の変化の確認に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人が楽しみ、集中して取り組めるよう、ご本人様の嗜好を取り入れた余暇活動の提供に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの行事によりお花見ドライブ、近隣への散歩等を行っている。その際買い物も行いそれにより楽しい時間を過ごされています。	バルコニーでお茶をいただいたり、プランターの水やりをしたりして外気浴できる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様や家族様の希望を伺い、相談したうえで、ご本人様が管理できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や汚染されたトイレ、他場所は常に清潔を保つように心がけています。	ホーム内は清潔に管理され、居心地の良い空間となるよう努めています。利用者に働きかけて季節の物を作り、飾りつけています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士でゆっくりと談話出来る様、ソファの配置や座席を工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物を持ち込んで頂き本人が安心できるように居室内作りに努めています。	本人に確認してベッドの位置を決めています。利用者の機能に合わせて配置を提案することもあります。家族の写真を持ってきてもらい、馴染みの物を活かして過ごせる環境をつくっています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やカレンダー、トイレなどの共用場所には大きな張り紙を貼るなど、日付や場所が分かり易いように工夫をしている。		